

令和8年度 杏林大学 総合政策学部・外国語学部 一般選抜（前期日程）

「国語」入学試験問題 出題意図

前期日程1日目・2日目ともに、全体を三つの大問で構成する。大問Ⅰ・Ⅱは現代文、大問Ⅲは漢字・成句に関する問題である。いずれもマークシート方式で出題する。

現代文では論説文を基本とするが、試験日により随筆からも出題することがある。いずれのジャンルにおいても、文章の論理構造を的確に把握する力を求め、指示語の理解、文章構成の把握、適切な語句の空欄補充など、文章内容の理解に基づいて解答する問題を中心に出題する。あわせて、接続詞の選択など、文章理解に加えて言語に関する知識に基づいて判断する問題も出題する。これらを通して、文章の内容を正確に読み取り、その構造を踏まえて理解する総合的な文章読解力を問う。

漢字・成句に関する問題では、文章読解や課題に応じて内容をまとめる力などの表現力の基盤となる語彙力を問う観点から、高校で学習する基礎的な内容から応用問題まで織り交ぜて出題する。

令和8年度 杏林大学 総合政策学部・外国語学部 一般選抜（前期日程）
「世界史」入学試験問題 出題意図

（全体）

時代：古代から近代

地域：世界の諸地域

世界史における自然環境・地理的条件、政治、経済、社会、文化、宗教など、歴史を構成する諸要素について、基礎的・総合的な理解を問う。

とりわけ、①地理的条件と歴史展開の関係、②国家・帝国・覇権の形成とその変遷、③経済活動・宗教・文化交流が歴史に与えた影響に着目し、各地域の歴史が相互に関わりながら展開してきたことを理解しているかを重視する。

（問題形式の意図）

・世界史の基礎的な用語、人名、年代等に関する選択問題により、基本的・標準的な歴史知識を正確に理解しているかを測る。

・問題文中の下線部に関連する出来事や背景に関する選択問題により、歴史事項を関連づけて理解しているかを測る。

（評価する観点）

以下の力を備えた受験生を評価する。

- ・個別の歴史事項を相互に関連づけて理解する力
- ・異なる地域・時代の歴史的背景を比較しながら捉える力
- ・歴史を断片的知識ではなく、連続した歴史の流れとして理解する力

令和 8 年度 杏林大学 総合政策学部・外国語学部 一般選抜（前期日程）

「日本史」入学試験問題 出題意図

【全体】

出題範囲：

「日本史探究」の範囲内で、総合的・基礎的な知識を幅広く出題する。

形式：

大問Ⅰ～Ⅳの 4 題（大問 1 つにつき小問 10 題、合計 40 題）で、各時代区分別のリード文を提示して、空欄、歴史的な事象・用語に引かれた下線部に関する関連事項を問う。

時代：

原始・古代から現代に至るまでを範囲とする。なお、出題にあたり、特定の時代のみを取り扱わない。

分野：

政治、経済、外交、社会、文化、科学などの諸分野となるが、出題にあたっては特定の分野のみを取り扱わない。

【問い方】

空欄補充（四者択一による選択）：歴史的な事象・用語について正確な知識を問う。

【出題意図】

原始・古代から現代に至るまでの日本の歴史に関わる諸事象について、地理的条件を踏まえて、歴史的な事象の意味・意義、伝統、文化の特色などを正確に理解しているか。また、日本の伝統や、文化の成立・発展、国家の形成過程、女性の社会進出、生活文化、科学技術の進歩などが、どのようにして歴史的に形成されてきたのかを問う。

令和8年度 杏林大学 総合政策学部・外国語学部 一般選抜（前期日程・2月1日）
「政治・経済」入学試験問題 出題意図

本試験は、高等学校における「政治・経済」の学習内容を踏まえ、政治・経済の仕組みや制度についての理解を総合的に評価することを目的として作成した。

I 出題分野：日本国憲法と統治機構

本問は、日本国憲法に基づく統治機構の基本的理解を問うものである。国会の地位や役割、衆議院と参議院の任期、弾劾裁判所などの制度的仕組みについての基礎知識を確認するとともに、内閣の構成要件や権限、国会との関係、国会の種類、制度改革、国会議員の特権、天皇の国事行為などについても出題し、日本の統治制度を体系的に把握しているかを総合的に評価することを目的とした。

II 出題分野：企業活動と現代の企業統治

本問は、企業活動の基本的な仕組みと現代企業をめぐる制度や概念について理解しているかを問うものである。企業の資金調達の方法や財務諸表の役割、株式会社の仕組みといった基礎的事項を確認するとともに、コーポレート・ガバナンスや企業の社会貢献活動など、現代の企業を取り巻く制度的・社会的文脈について幅広い知識を問うことを目的とした。

III 出題分野：財政の役割と社会保障

本問は、政府の経済的役割である財政の機能について理解しているかを問うものである。公共財の性質や、所得再分配機能としての累進課税、景気調整機能としての財政政策など、財政の三つの主要な役割について基礎的理解を確認することを目的とした。さらに、会社形態、資本主義経済の特徴、景気循環の理論、若年雇用問題、戦後日本の税制改革、社会保障制度の構成、有効需要の理論などを取り上げ、経済の基礎概念と制度的知識を総合的に評価することを目的とした。

IV 出題分野：国際経済体制と国際機関

本問は、経済のグローバル化の進展に伴う国際経済体制と国際機関の役割について理解しているかを問うものである。GATT から WTO への移行、ウルグアイ・ラウンドやドーハ・ラウンドなどの国際交渉の流れを理解しているかを確認するとともに、国際経済協力の枠組みについての知識を測ることを目的とした。また、サプライチェーン、国際金融体制の成立、保護貿易論、知的財産権、EU 離脱問題、絶対的貧困の基準などを出題し、現代の国際経済の仕組みや課題を多面的に理解しているかを評価することを目的とした。

令和 8 年度 杏林大学 総合政策学部・外国語学部 一般選抜（前期日程）

「数学」入学試験問題 出題意図

数学（総合政策学部、外国語学部）においては、数学 I、数学 A の各分野における数学的知識の正しい理解を測るため、計算問題に加えて、論理的思考に基づく数学処理を要する問題も出題する。

2026 年 2 月 1 日、2 日実施分

- I. 数と式、集合と命題、2 次関数、整数、1 次不定方程式の各分野について、正しい計算および論理的思考に基づく応用を行えるかを問う。
- II. 図形と計量（三角比、三角形への応用）、図形の性質（平面図形、空間図形）の各分野について、正しい計算および論理的思考に基づく応用を行えるかを問う。
- III. 場合の数と確率、データの分析の各分野について、正しい計算および論理的思考に基づく応用を行えるかを問う。